

## 「やり抜く」と「振り返り」

校長 嶋見 靖之



8月28日（月）2学期が始まりました。子どもたちは夏休みの思い出と2学期のめあてをもって、元気に登校しました。私は始業式で、2つのことを頑張ってもらいたいと子どもたちに話しました。

- めあてに向かって、やり抜く
- 仲間とともに ○○合う

一つ目の「めあてに向かって、やり抜く」では、「めあてが達成できなかったからダメなのではない。なぜめあてが達成できなかったを振り返り、見直したり工夫したりして再び挑戦する、つまり『やり抜く』ことが大切。」ということをお話しました。

やり抜いた達成感や成成感は大きな自信となります。この点は重要です。もう一つ、やり抜く過程に意味がある、ということに注目したいと思います。

達成できれば、そのやり方や気持ちの持ち方は忘れないでしょう。達成できなかったときでも、見直しをしたり工夫したりして、新たな考えや気持ちが生まれてきます。このように、自分が決めためあてに向かっていく過程で、子どもたちは学んでいきます。自分で決めたことですから、その学びには意味や価値があります。

しかし、子どもたちにとっては、学んだことよりめあてが達成できたかどうかの方が関心事です。なので、「大会を通して学んだことは何ですか？」「どうして自己ベストが出たのですか？」などと意図的に問うことで、子どもたちは、学んだことは何か分かります。高千小学校では、このような振り返りを大事にしています。

一方で振り返りは、成果を確認したり改善を図ったりする役割をもち、「自己マネジメント（自己管理）」の大事な過程となります。振り返りを通して、家庭学習や生活時間といった家庭生活を管理する力を付けることも高千小学校の課題です。

「また次、頑張ろう」という励ましはやり抜く気持ちを支え、「今日のマラソン大会どうだった？」などと問い掛けることは振り返りを促します。日記や生活記録も振り返りです。めあてに向かってやり抜く子どもたちを、家庭・地域でも支えていただきたいと思います。2学期もよろしくお願いいたします。